

社会福祉法人 東京聖新会 事業報告

1. はじめに

社会福祉法人東京聖新会は、開設以来、地域のみなさまの健やかな生活の継続を願い「地域から信頼される東京聖新会」を目指し、社会福祉法人として役割を果たしてまいりました。

平成27年度につきましては、介護保険改定もあり、当初より大変厳しい法人運営となることが予測されていきました。実際に介護報酬単価等の削減により運営中止とせざるを得なくなった他の事業所もあったとのこと。東京聖新会では、そうした社会情勢の変化にいち早く対応すべく、段階的に計画を策定し、各種事業に取り組みました。社会福祉法人として、確実な法人運営の継続はもとより、「地域社会貢献」を、公正、且つ適正に、透明性をもって臨み、実践を進めております。不足はありながらも、地域社会のニーズに、迅速に、そして、しなやかに対応してきたものと考えております。

東京聖新会の新たな取り組みは大きく三つに分けられます。

第一に、社会福祉法人の「あるべき姿」としての一番の根幹である法人理念の実践にかかわる取り組みです。ゲストの「その人らしさ」をその生活の中で確実に再現していただくためには、職員たちの介護に対する基本理念と、それを実践する東京聖新会の理念への理解は不可欠です。その理解促進のために「クレド・・・私たちの約束」を全職員で完成させることができました。クレドの作成工程は「法人はひとつである」としたスローガンの実践に繋がり、職員全員が、自ら普段の業務を足元から振り返り、見つめなおすことのできる素晴らしい機会となりました。今後の法人としての実践力が高まっていくことが期待されます。

第二に、新機軸の事業開始です。一昨年より開始されたハートフル田無の訪問リハビリに加え、今年度は訪問看護ステーションが開設されました。この開設は、今後の地域ニーズの移り変わりをしっかりとアセスメントし、確実に対応できる良い機会となりました。また、ハートフル田無では「看取り」ケアを開始し、在宅での看取りも実践しております。一方、フローラ田無で受託している地域包括支援センターの進めている各種の実践を、ハートフル田無のリハビリや看護部門を効果的に活用することで、対地域に無料サービスを展開することにも着手しています。新たな社会貢献事業として、大いに期待できる場所となっております。

第三の取り組みとして、東京聖新会では社会貢献事業の一環として新しい分野への積極的な働きかけを行っています。「介護コミュニケーションロボット導入へ向けての実証実験」への取り組みです。こうしたトライアルは、介護事業者として、単に介護サービスの提供を行うだけが機関たる所以ではなく、介護業界全体を俯瞰し、将来を見据え、常にコミットできる機関となることが求められている証ではないかと考えています。社会に影響を及ぼせる「より良いシステムを考え続け、実践提案できる力」を持つことは、「これからの社会福祉法人の在り方」としてのひとつのモデルとなってくるのではないのでしょうか。新たな可能性への挑戦として、先進情報先進技術への提案、実践等を、今後も東京聖新会から発信していきたいと考えています。

さて、平成27年度の当法人事業につきましては、「地域からより信頼される社会福祉法人」

として上記の取組みを具体的に策定し、実践致してまいりました。以下、社会福祉法人東京聖新会平成27年度の事業報告といたしますので、ご熟読の上、ご理解をいただけますようお願い申し上げます。



わたしたちの約束 「心づくしをみなさまへ」

わたしたちは利用者さまを「ゲスト」とお呼びしています。文字通りお客さま (Guest) という意味ですが、GeST : Get Smile Together 『一緒に笑顔を』 という意味も含まれています。

・ゲスト、ご家族との約束

わたしたちは、入所中あるいは在宅にいらっしゃるゲストが最後までその人らしい暮らしを送ることができるよう、ゲストとご家族の意思を十分に尊重し、地域のもつあらゆる社会資源を活用しながら、できる限りの支援を行います。

・地域の人々、医療・介護・福祉チームとの約束

私たちは、地域のみなさまの誰に対しても誠実な対応を心がけます。みなさまにとって『快適』で『安全』な『安心』できるサービスを提供いたします。そして、地域のみなさまから『信頼』されるように努めます。

そのためには、ともに地域で活動する医療・介護・福祉に携わる多職種の仲間との協働が肝要だと確信します。その仲間からの要請にはできる限り迅速に対応いたします。

・社会との約束

わたしたちは、日本の介護保険・医療保険制度の中で可能な限り、ICF (国際生活機能分類) の理念に基づいたサービスを提供します。障がいのあるなしにかかわらず、子どもたちから高齢者まで誰もが健康で安心して暮らせる生き生きとした長寿健康社会実現のために努力します。

・共に働く仲間との約束

わたしたちは、多くの職種が連携することで成り立つ社会福祉法人東京聖新会の一員として働くことを

誇りとし、それぞれの立場で果たすべき自らの役割と責任を理解し、共に働く全ての仲間を尊敬し、互いに協働して眼前の課題を克服します。

わたしたちは、新しい知識や技術の習得に挑み、同時に心を豊かにする芸術的感動を大切に、絶えざる切磋琢磨を忘れません。



2. 基本理念 運営方針

<法人基本理念>

「心づくしを皆様へ～」

東京聖新会は、誰もが健康で安心して生活できる長寿社会の実現を目指し、「快適」「安全」「安心」「信頼」をゲストの皆様と地域の皆様に提供できるよう心を尽くします。

さらに、ICF（国際生活機能分類 International Classification of Functioning, Disability and Health）の視点から、提供するサービスの内容を考え続けます。

フローラ、ハートフル、ふたつは一体として・・・

フローラ田無は「住み慣れた環境で自己実現や社会参加を果たしながら安心して住み続けていただける施設」とし、また「医療施設から在宅復帰へと繋ぐ架け橋」としてのハートフル田無はゲストおひとりおひとりのニーズに合わせた機能訓練を行い、全人的復権（人間性の回復 リ・ハビル）を進めます。両施設共にゲストの日々の生活の支援は、パーソン・センタード・ケア「その人らしさ」の再現、「自己実現」を基本とし、画一的なケアや、介護側の都合によらない「個別ケア」を基本として施設サービスを実施します。ゲストが自立した生活を営むことができ、速やかに在宅復帰や社会参加できる環境を整えて参ります。そして、地域に住まう皆様からの地域資源のひとつとしての使命を担い、重ねて地域から信頼される法人となることを目指します。

<法人の目標>

法人基本方針に則り、下記に法人目標を掲げます。

個人の尊厳を守り、法人を取り巻く地域との連携を図り、パーソン・センタード・ケア「その人中心の」「その人らしい生活の実現」をできることを目指します。法人としてICFの視点から、可能な限り「できること」を「できる範囲」で計画し、ゲストだけではなく、地域からの満足度を高められるよう実践します。また、ゲストのニーズを的確にキャッチし、常に「何が必要とされているか？何が大切なのか？」を考え、社会情勢等にも柔軟に対処できる力強い運営を継続して参ります。

「心づくしをみなさまに」

一、「はい」という「素直な心」

二、「すみません」という「反省の心」

三、「私がします」という「奉仕の心」

四、「おかげさま」という「謙虚な心」

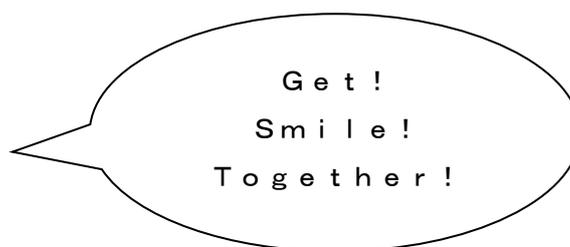
五、「ありがとう」という「感謝の心」

六、サービスをご利用になる利用者さまは「ゲスト」として「もてなし」の心をつくします。

「ゲ」 GET

「ス」 SMILE

「ト」 TOGETHER



ICFの視点とは・・・

1. 何らかの意欲を持っていろいろな生活機能を使い、環境と相互作用しながら生活し人生を送っていることを大切にする。
2. 何らかの生活機能の低下（障害）にあっても、自分なりに乗り越えて意欲を達成しようと人間はさまざまな生活機能を使っていることを尊重する。
3. 人間の障害を克服するために、医学モデル・社会モデルを結合して障害をとらえ、ケアを検討・実施し、本人自らが意欲の達成を目指すことを支援する。

上記を基本目標として、下記の中長期目標をおきました。

<長期目標>

ゲストが安心、安全に日常生活を送り、機能が向上することで自立できるよう支援します。

- ① ゲストの健康情報の管理システムを構築し、効果的な地域との連携を促進
- ② ゲストの機能向上を図り、在宅への復帰を促進
- ③ 地域のみなさまが在宅生活を継続できる包括的なシステムづくり
- ④ サービスの向上、さらなる個別ケアの充実
- ⑤ 地域のニーズを反映した適切な入退所支援
- ⑥ 地域社会に向けての貢献と運営の透明化
 - ・・・災害時に強く、社会情勢に対応できる施設運営
- ⑦ 設備などメンテナンスの実施

「東京聖新会はひとつ」を合言葉として以上の内容に取り組みます。

- ⑧ 社会福祉法人として地域貢献に繋がる新たな可能性を検討します。

＜中期目標と成果＞

① について・・・ゲストの健康情報の管理システムを構築し、効果的な地域との連携を促進

ゲストの介護医療情報システムの構築を目指し、東京聖新会全体として情報の標準化を進めました。地域連絡会等にて地域連携を深めるツールとして活用が進められています。個人情報の取り扱いには十分な配慮を行い、システムなど周知徹底のための研修を実施しました。「個人の尊厳の尊重・権利擁護」等の研修で周知徹底しています。昨年度に続き、向台町地域包括支援センター、居宅支援事業所とシステムの連携と拡充を進めました。

(本年度達成目標と成果)

- 1) 「システム管理委員会」を活性化させ、日常業務（看護、介護、リハビリ）情報のIT化として、タブレットの購入とウェブカメラの購入を行いました。
- 2) 外来の医療情報・介護福祉情報を併せた個人情報全体の取り扱い方法の部門間の共有化と、2例以上のモデルケースの策定までは進みませんでした。次年度への検討事項となっています。
- 3) これらの個人情報が、(個人の意志に基づき)地域の病・医院、歯科医院などと情報交換可能となるシステム、「仕組み」作りの一環となるように、地域と連携化促進を進めた結果、情報連絡会の定期的開催と、東京聖新会主催、向台地域包括協力によるシンポジウムが開催されました。

② について・・・ゲストの機能向上を図り在宅への復帰を促進

転倒などの事故予防を進め、生活リハビリを含めたリハビリテーションについての意識を高め、デイケアのあり方の再検討と再構築を行い、地域へのアプローチを行いました。在宅への復帰率は3%程度向上しています。

(本年度達成目標と成果)

- 1) 個別リハビリ及び短期集中リハビリサービスはもとより、介護保険以外でのサービスとしてのリハビリシステムの実践を進め、在宅ゲストから喜ばれました。
- 2) 老人保健施設として、在宅復帰を進めるために、デイケア、フローラ田無短期入所生活介護と連携を進め、リハビリシステムを向上させ、地域のニーズに応えました。
- 3) 専門性を活かした、介護職への教育と指導制度の確立。
転倒事故の事例を検討し、研修を実施し、事故発生率の低下に努めました。
- 4) 住み慣れた地域で在宅生活を継続できる地域市民のみなさまの身体機能向上のシステムづくりの促進を進めるために、向台地域包括センターと連携し、地域市民への研修を通してアプローチを行いました。

③ について・・・地域のみなさまが在宅生活を継続できる包括的なシステムづくり

在宅におけるその人らしい生活の再現、ICFの理念に基づいたケアを行い、ハートフル田無が中心となり、訪問リハビリ、訪問看護が包括的な支援を進め、在宅による最期の看取りを行う等、個人の尊厳を尊重した在宅ケアを進めました。

(本年度達成目標と成果)

- 1) 平成26年度ハートフル田無により試行されている訪問リハビリの地域への周知が進み、新たな地域ニーズに応えられるようになっていきます。地域高齢者の在宅生活を継続支援実施しています。
- 2) 平成27年度より、ハートフル田無にて訪問看護ステーションを開設し、訪問看護のシステムを根付かせ、地域の新たなニーズに対応しています。それに伴う人員配置、備品等の購入を行いました。また、在宅での「看取り」を地域医療と連携し、実践しています。

④ について・・・サービスの向上、さらなる個別ケアの充実

その人らしい生活の再現、ICFの理念に基づいたケアを行い、社会参加を促します。パーソン・センタード・ケアの実践を行うために、各組織の活性化を担うため、委員会等の改善、研修内容の再検討を行いました。

(本年度達成目標と成果)

- 1) 東京聖新会全体として、各委員会活動の連携を図り、不要な委員会を集約、特化し機能性を高めました。
- 2) 研修計画に則り、各研修を行いスタッフの組織性や専門性を向上させています。
(法人全体で各種研修を実施)
- 3) 顧客満足度と職員満足度の向上を図る各種アンケートを継続実施し、環境改善へとつなげています。
- 4) 第三者委員会の設置が行われ、今後は家族会等の見学を行う予定となっています。
- 5) 個別ケアの充実をすすめるためにも、外部研修を有効活用し、施設内研修の質の向上を図っています。

⑤ について・・・地域ニーズを反映した適切な入退所支援

市内各施設と連絡会を活性化し、的確な入退所相談の実施。緊急時に連絡を取ることのできるシステムの見直し、緊急入所なども含め、緊急受け入れ時の情報不足に対する対応策として、情報連絡会にて、市内施設統一書式を提案しています。

(本年度達成目標と成果)

- 1) 地域ニーズに応えるために、アンケートなどを実施しています。
- 2) 向台町地域包括支援センター、フローラ居宅支援事業所、ハートフル訪問看護ステーション、訪問リハビリと綿密な連携を図り、フローラ、ハートフルの入退所を促進し、迅速な入所、対処した後のフォローを確実にを行い、地域のニーズに即応しています。
- 3) 目指せ！待機者ゼロをスローガンとしています。

⑥ について・・・地域社会に向けての貢献と法人運営の透明化

地域市民のみなさまと地域包括センターと協働による、災害時に強く、社会情勢に対応できる施設運営を進めます。また、介護保険制度改定に従った適正な施設運営等、誰にでもわかる透明性の高い法人、利用しやすいサービスの提供を図っています。法人内各委員会等の組織の再編に伴い、新たに「地域連携室」を設置し、地域での連携を深める部門を構築しました。スタ

トップへの定期的な面接を行い適正な人事考課を実施しています。3S（スマイル・セーフティ・スリム）と3K（綺麗・快感・心地良い）をスローガンとして各委員会で検討し、コストダウンを進めた結果、経費の削減が進みました。

（本年度達成目標と成果）

- 1) 地域包括ケアの在り方の検討、災害時に頼りになる地域包括支援センターの活性化
地域包括職員はもとより、法人として「地域連携室」を設け、地域と法人の活性化を進めることが可能となりました。引き続き、地域のFMラジオ局と協力し合い、法人の番組を制作し、情報発信にも努めています。
- 2) キャリアパスによる適切な人員配置と人材の定着、確保と育成を図るため、あらゆる角度からのアプローチを行っています。技能実習生制度についてベトナムへの視察を行い、18施設を見学し、現状の理解が進みました。
- 3) 地域自治体等との防災協定による環境整備、大規模災害時の避難訓練に法人として参画し、非常時への備えの再確認を行い、シミュレーションを行うことができました。
- 4) 補助金等の申請とコストダウンの励行により、経費の削減が進みました。
- 5) 消耗品仕入れ等の一括購入の検討について、今後は紙おむつの仕入れを進める予定となっています。
- 6) 法人HPを活性化しています。会計報告を始めとする、あらゆる情報をHPを活用して発信し、法人運営の透明化を進めています。

⑦ について・・・設備の新規購入、保守点検

デイケア部分の有効活用と各補助金制度を活用し、車両購入や、施設内各所の改善修理等を行いました。

（本年度達成目標と成果）

- 1) 訪問看護ステーション事務所の有効活用方法の検討を引き続きおこなっています。
- 2) 施設内各所の整備、修繕、改善、不要な在庫、備品の整理廃棄を進めています。
- 3) ベッド等の備品の交換と、屋上防水工事の予算等の組み込みを行いました。

「東京聖新会はひとつ」を合言葉として以上の内容に取り組みます。

介護保険改訂等、社会情勢や制度を踏まえた上で、合築型施設の「強み」をさらに活かし社会福祉法人東京聖新会の安定した運営を進めました。

（本年度達成目標と成果）

- 1) 委員会システムの再検討、効率化の促進の一環として、合同主任室の改変改善を行いました。
- 2) 更なる人事考課システムの見直しの継続を行っています。
- 3) 施設間人事交流をさらに進めています。また、東京聖新会職員としての誇りとプライドの持てる職員の育成を進めるために「クレド、私たちの約束」を職員全員で取り組み作成しました。
- 4) 個人研修制度を活性化し、「チャレンジ」と「フィードバック」システムの研修を実施しています。

⑧ 社会福祉法人として地域、社会貢献に繋がる新たな可能性を検討し、チャレンジしています。介護コミュニケーションロボットの実証実験をNTTdata、一般社団法人ユニバーサルアクセシビリティ評価機構とコラボレーションし、研究開発に努め、提言を行う準備を行っています。

社会福祉法人本来の在り方、基本理念を再確認し、法人理念の実現に向けて的確なサービス提供を行います。理念実現のために足りないものはなにか、必要なかを検討し、そのために新しい分野での可能性を探り、様々な挑戦を行ってまいります。

(本年度達成目標と成果)

- 1) 社会福祉法人法改正に伴う、法人役員等の在り方を役員会にて検討しました。
- 2) 介護コミュニケーションロボットの实証実験をNTTdata、一般社団法人ユニバーサルアクセシビリティ評価機構とコラボレーションし、研究開発に寄与しました。

<適正な運営を進める>

社会福祉法人の使命のひとつとされる「地域社会貢献」については、より高い「公共性」を求めつつ、「社会ニーズに応えられる先見性」をもった取り組みを進め、管理運営の透明化を進めます。また、事業継続計画（BCP）の整理等、危機管理の充実、身体拘束ゼロの実践、苦情対応の充実、高齢者虐待防止への取り組み、防災ネットワーク、防災協定締結、介護保険改訂に向けての対応など継続し、適正なる運営を進めてまいります。

東京聖新会は、変わりゆく地域社会のなかで、地域のみなさまが個々の尊厳を尊重され、「住み慣れた安全な環境で、その人らしく、安心して、より快適な環境での生活」が実現できる、そうした地域社会の構築を目指し、地域のみなさまと共に歩んでまいりたいと思っております。今後とも、変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。